

土岐川グリーンベルト通信 第101号

令和2年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

「土岐川流域グリーンベルト整備事業」とは、多治見市・土岐市の“市街地に隣接する樹林地”を「土砂災害に強く、自然環境や景観が豊かな樹林地（グリーンベルト）として保全・創出すること」を目的としています。

地域の森を「強くて豊かな樹林」にするため、多治見市立笠原中学校では、地域ボランティアの方々と協働して平成12年から樹木の伐採活動（樹林整備活動）を実施してきました。

今年度は12月16日に、笠原中学校1年生42名が中学校に隣接する「笠原の森」についてビデオ学習、屋外活動、そして玉切り体験を通してグリーンベルト活動について学びました。

○学習会

ビデオ学習「土砂災害とは」「森林のはなし」

○屋外活動

「砂防堰堤の見学」「森の土の観察」

○玉切り体験

「伐採木の樹種調べ」「伐採木の処理（玉切り）体験」



学習会

土砂災害とは



（長野県木曾川水系滑川の土石流）土砂災害を引き起こす自然現象について学びました。

森について



土砂災害のメカニズムについて学びました。森がないと土砂が流れ出してしまいます。森の存在は大切です。

土砂災害を防ぐためには、森を育てることが重要であることを学びました。

「笠原の森」の昔



（多治見市笠原町森下地区）

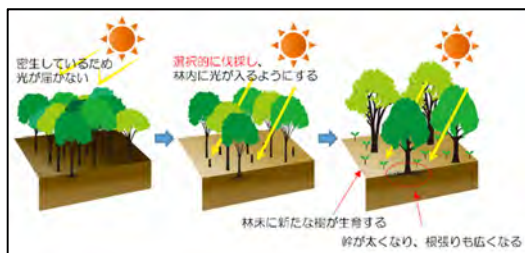
昔から窯（よう）業が盛んであった多治見市周辺では、陶土の採掘や薪炭材の伐採のために、昭和20年代までは“はげ山”が広がっていました。そのため山から土砂が流出し、土砂災害が頻繁に起こっていました。

土砂災害ハザードマップと身近にある砂防堰堤



笠原町のハザードマップを実際に手にすることで、身近な場所に潜む土砂災害のリスクを学びました。土砂災害を防ぐための砂防堰堤が、笠原中学校のすぐ近くにあることを学びました。

樹林整備の目的



「笠原の森」を土砂災害に強くて豊かな森にするためには、樹林整備（伐採）をおこない林内に光を取り入れ、木を大きく育てる必要があります。

樹林整備の方法&注意点



最後に、樹林整備（玉切り体験）をおこなうにあたって、木の切り方や注意点などを学びました。



屋外活動

屋外活動では、「笠原の森」にある砂防堰堤を見学して土石流を防ぐ役割を学びました。また、「笠原の森」の入口では森と土の観察をおこないました。現在でも「笠原の森」の土の厚さは数センチ程度と薄く、より災害に強い森にするためには土を保持する必要があることを学びました。そのために樹林整備をおこない、林内に光を取り入れて、土の流出を防ぐ健全な樹林を育てる必要があることを学びました。

砂防堰堤の見学



森の観察



土の観察



玉切り体験

今年は雪の影響のため、室内に運び入れた伐採木の玉切りを行ないました。はじめに伐採木の樹種調べをおこない、次に刃物の装着と切り方の注意点を確認しました。玉切りは怪我なく安全におこなうことができました。活動を通して、木の見分け方や木を切る感覚を知り、残された木がこれから大きく育つことで土砂災害を抑える効果が高くなることを学びました。これまで先輩たちが「笠原の森」でおこなってきた樹林整備活動を引き継ぐことができました。

伐採木の樹種当てクイズ



安全確認（危険予知活動）



刃物の使い方を学びました



枝払い（玉切り作業の前準備）



玉切り作業（指導のもと、仲間と協力して玉切りを行いました）



最後は全員で後片付けをしました



作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>